

風しん第5期予防接種説明書

1 風しんについて

風しんは、風しん患者の咳やくしゃみで飛び散る風しんウイルスの感染によって起こる病気で、潜伏期間は14～21日間です。主な症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどですが、症状が出ないこともあります。しかし、まれに血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することがあり、軽視できない疾患です。特に、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴などの先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれることがあります。

2 麻しん風しん混合（MR）ワクチンについて

麻しん風しん混合（MR）ワクチンは、麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。

接種を受けた人の95%以上に、感染予防に必要な抗体ができると言われています。

3 ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状（疼痛、腫脹、硬結、熱感等）です。稀にみられる副反応としては、アナフィラキシーという重いアレルギー反応、血小板減少性紫斑病、脳炎等があります。

4 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱している人（一般的に、体温が37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の成分に対して、アナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）を起こしたことがある人
- ④ その他、医師が不適当と判断した場合

5 予防接種を受けるに際し、医師との相談が必要な人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などの基礎疾患がある人
- ② 以前に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱、全身性発疹、息苦しさ、吐くなどのアレルギーを思わせる異常が見られた人
- ③ 今までに、けいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 今までに、免疫状態の異常を指摘されたことがある人もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ⑤ この予防接種の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人

6 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副作用が起こることがあります。医師（医療機関）と、すぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 予防接種後に高熱やけいれんなどの異常があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしましょう。
- ④ 接種当日は、激しい運動や過度の飲酒は避けてください。
- ⑤ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。

7 予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がある障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会にて審議します。審査会で、予防接種によるものと認定された場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。